

一般社団法人 電波産業会

Association of Radio Industries and Businesses

No.1093 2017年10月10日

10 月は「受信環境クリーン月間」です

受信環境クリーン中央協議会では、例年10月1日から10月31日までの間を「受信環境クリーン」月間」と定め、放送電波の受信障害の防止に向けた活動を集中的に展開しています。会員の皆様も電 波障害の防止になお一層のご協力をお願いします(詳細はARIBニュース No.1089 2017年9月11日を参照ください)。

ARIBからのお知らせ

標準規格等の英語翻訳版電子ファイルの公開について

新たに4件の英語翻訳版を公開しました。

通信分野

,		
規格番号	¦等	標準規格名等
STD-T111	1.1 版	79GHz 帯高分解能レーダー標準規格

放送分野

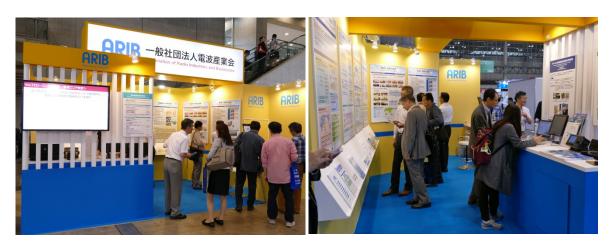
規格番号等		標準規格名等	
STD-B24	6.4 版	デジタル放送におけるデータ放送符号化方式と伝送方式標準規格	
STD-B32	3.9 版	デジタル放送における映像符号化、音声符号化及び多重化方式標準規格	
STD-B62	1.7 版	デジタル放送におけるマルチメディア符号化方式(第2世代)標準規格	

※「英語翻訳版」は、標準規格又は技術資料の正本から英語に翻訳されたものであることを示します。正本と翻訳版との間に内容、表現等に何らかの相違点があった場合は、正本を優先します。

aribo**s**ė

CEATEC JAPAN 2017 に出展

10月3日(火)から6日(金)まで、CEATEC JAPAN 2017が幕張メッセで開催され、 当会も社会・街エリアにブースを設けて広報普及活動を行いました。 今年の CEATEC は、「つながる社会、共創する未来」をテーマに、昨年から方向転換した「CPS/IoT 総合展」へのシフトをより一層加速させ、IT・エレクトロニクスに加えて、CPS/IoT を活用する幅広い業種・産業の企業/団体 667 社・団体(出展小間数 1758) が参加しました。



CEATEC JAPAN 2017 ARIB ブースの様子

ARIB ブースにおいては、以下の出展、紹介を行い、電波関係のビジネスに係る多くの方にご来訪いただきました。

- (1) ARIB の概要、研究開発活動、国際協力活動について、パネル展示による紹介
- (2) 第28回電波功績賞を受賞した技術やシステムについて、スライドショー、デモ展示による紹介

また、熱心にご見学いただいた 553 名の方にアンケートにもご協力いただき、関心・興味の傾向を調査すると共に、ARIB 非会員の企業・団体の皆様には活動内容、会員の特典等も説明させていただきました。IoT 時代を反映してか「今までは直接関係がなかったが、これから電波・無線に関わりができそうなので、情報収集に来た。」という方も、連日何名かいらっしゃいました。

ARIBブースへのご来場、心から御礼申し上げます。

CEATEC 来場者数と、ARIB ブースでのアンケート実施者数

	10月3日(火)	10月4日(水)	10月5日(木)	10月6日(金)	合 計
CEATEC 来場者数	31,641	34,492	40,171	45,762	152,066
ARIB ブース アンケート実施者数	113	130	103	207	553

(参考: 2016年の CEATEC来場者数は、145,180人)

第 5 世代移動通信システム(5G)ワークショップ 2017 を開催

世界の各地域において、2020年及びそれ以降を目標とした第5世代移動通信システムに関する調査研究が活発に行われています。第5世代移動通信システムには、医療、教育のような

様々な分野における社会経済的見地から、超高速・超大容量データを利用する、全く新しいモバイルサービスの導入が期待されています。

このような中、10 月 4 日(水)、千葉・幕張メッセ国際会議場にて、CEATEC JAPAN 2017 コンファレンスのプログラムとして、総務省主催、第 5 世代モバイル推進フォーラム (5GMF) 共催による「第 5 世代移動通信システム(5G)ワークショップ 2017」が開催されました。

第4回目となる今回は、5Gの利活用による新たな市場創出を目指し総務省が実施する実証 試験等に関して、実施企業の皆様からプロジェクトの目標や試験環境等について実施概要をご 講演いただきました。

また、パネルディスカッションでは、学識経験者と利活用産業及び国際連携の分野からの皆様が加わり、実証試験における課題や期待、今後の展望等について、熱心な意見交換が行われました。



第5世代移動通信システム(5G)ワークショップ 2017 の様子

開会にあたり、総務省の鈴木総務審議官からご挨拶をいただいた後、本ワークショップ組織 委員会の吉田 進委員長(京都大学 名誉教授)から基調講演が行われました。



総務省 総務審議官 鈴木 茂樹 氏



ワークショップ組織委員会委員長 京都大学名誉教授 吉田 進 氏

それに続いて、「2020年の 5G 実現に向けた取組み」と題したセッション 1 では、総務省新世代移動通信システム推進室長の中里 学氏から「5G Initiatives in Japan」の演題で 5G 早期実現に向けた背景、基本コンセプトや総合実証試験など、総務省による取組みの概要が紹介されました。

続く、「5G 実証試験推進グループ(TPG)の活動状況 - 日韓連携へ向けた取組み - 」と題したセッション 2 では、5GMF 5G 実証試験推進グループリーダ奥村幸彦氏(NTT ドコモ)から「Activity Status of 5G Trial Promotion Group in 5GMF」と題して 5GMF TPG の活動と報告書、総務省による実証試験および韓国との連携などの概要について、また韓国 5G Forum Prof. H.W. LEE からは「5G Trial & Collaboration in Korea」の演題で 5 韓国における 5G トライアルにおける概要と今後の計画、各国との連携などについてのご講演が行われました。



総務省中里学氏



5GMF/NTT ドコモ 奥村 幸彦 氏



5G Forum Prof. H.W. Lee

セッション 3 では「5G 実証試験プロジェクトの実施概要」と題して、NTT ドコモ奥村幸彦 氏から「Trial Overview of Group I & II in MIC 5G Field Trial Project」、KDDI 松永彰氏から は「5G Field Trials by MIC (GIII, GIV)」、ソフトバンク吉野仁氏からは「Activity overview of 5G Field Trial in Japan」との演題でそれぞれのプロジェクトの概要が紹介されました。



KDDI 松永 彰 氏



ソフトバンク 吉野 仁 氏

続いて、パネルディスカッションを開催し、ご講演をいただいた皆さまに加え、通信事業者から NTT ドコモ 中村武宏氏、利活用産業を代表して大林組 古屋弘氏、ソニー 島田啓一郎氏をパネリストに迎え、5GMF 技術委員会委員長三瓶政一氏(大阪大学)がモデレータを務め、5G 実現に向けて行われる実証試験における課題や期待について、意見交換が行われました。

当日は約500 席の会場に100人余りの立ち見が出るほどご来場いただき、大盛況のうちに終了しました。



パネルディスカッションの様子



パネルディスカッション モデレータ 5GMF技術委員会 委員長 三瓶 政一 氏

アジア・太平洋電気通信共同体無線グループ第 22 回会合(AWG-22)の概要

AWG (Asia-Pacific Telecommunity Wireless Group) は、アジア・太平洋地域内における無線通信システムの高度化及び普及・促進を目的として、同地域内での無線通信システムに関する周波数の調和や標準化等について検討を行う会合で、同地域各国の無線技術の専門家が参加し、通常年2回開催されています。体制は、議長:佐藤孝平氏 (ARIB)、副議長: K.Zhu 女史 (中国)、L.V.Tuan 氏 (ベトナム)となっています。

今回、AWG-22 会合が韓国・釜山で開催されましたので、その概要を報告します。

- 1 期 間:2017年9月25日(月)~29日(金)
- 2 場 所: Haeundae・Gr and Hotel (韓国・釜山)
- 3 参加者

アジア・太平洋地域の主管庁・民間組織・国際機関等から約 210 名が参加。日本代表団として、総務省網野国際周波数政策室課長補佐を団長に 41 名が参加。電波産業会からは、佐藤参与、他 1 名が参加。

4 会議の概要:

本グループは、周波数、技術、サービス・アプリケーションの3つのワーキンググループ (WG) を設置しており、各WGにおいて課題毎にサブWG及びタスクグループを設置して審議を行ないました。主な結果は以下のとおりです。

- (1) IMT (第5世代移動通信システム等)
 - ・WRC-19 議題 1.13 である 24.25-86GHz 帯に関する各国の利用状況調査の APT レポートの充実化作業を行い、進捗状況を第 3 回 APG 会合に伝えるリエゾン文書を発出
 - ・IMT ネットワークに対する規制に関する情報収集のための質問票を発出することを決定
 - ・470MHz帯のIMTの周波数配置に関する新レポートを完成・承認

- (2) 高度道路交通システム(ITS)
 - ・APT 地域の ITS 利用に関するレポートの改訂 (Revison2) に更なる情報を盛り込むことを合意
- (3) ワイヤレス給電システム(WPT)
 - ・モバイル用 WPT の周波数範囲(6.78 MHz 帯)に関する新勧告案を採択し、承認プロセス に進めることで合意
 - ・電気自動車の給電のための Non-BEAM WPT の周波数範囲に関する新レポート案を完成・承認
- (4) 鉄道無線システム
 - ・WRC-19 議題 1.11 である列車/線路側設備聞の通信(RSTT:Railway radiocommunication System between Train and Trackside)に関する新APTレポートを完成・承認
 - ・RSTT に関する作業進捗に関するリエゾン文書を APG と WP5A に送付
- 5 次回会合

次回第 23 回会合は、2018 年 4 月 9 日 \sim 13 日に、ベトナムを主催国として開催される予定です。

第 21 回世界電気通信標準化協調会議 (GSC-21) の概要

GSC (Global Standards Collaboration) 会合は、世界の電気通信標準化機関の代表者及び専門家が、ICT に関する標準化活動についての情報交換を行うとともに、各標準化機関 (SDO: Standards Development Organization) での検討の重複を避け、グローバルな標準化を促進するための SDO 間の協調と連携の戦略を検討するために年一回開催されています。

今回、GSC-21 会合がオーストリア・ウィーンで、IEEE がホストとなり開催されましたので、その概要を報告します。

- 1 期 間:2017年9月26日(火)~27日(水)
- 2 場 所:Austrian Standards (IEEE の欧州オフィス:オーストリア・ウィーン)
- 3 参加機関: GSC メンバー 12 機関 (※1) 及びゲスト (Austrian Standards、EC、T-Mobile International Austria)
- 4 参加者: GSC メンバー76 名及びゲスト 10 名の合計 86 名 ARIB からは 西岡理事、NEC: 山本、ソフトバンク: 上村、中村(一)、熊谷
- 5 会議の概要

GSC-21 では、各標準化の最新の状況報告(優先課題、戦略的取組み等)が行なわれました。ARIB からは、西岡理事が最新の状況及び優先課題として①5G、②UHDTV、③ITS への取組み、進捗状況の説明を行ないました。

その後、事前の電話会議で選定した 2 つの戦略課題 ①Communication Technologies and Artificial Intelligence in Autonomous Systems、②Smart Cities 、及び ARIB からの提案 により設けられた特別セッションとして ③Global or Regional harmonized frequency bands for Intelligent Transport Systems(WRC-19 Agenda Item 1.12)について、それぞ

れ GSC メンバーから発表があり、続いて議論が行なわれました。

戦略課題①セッションでは、自律型車両、認知コンピューティング、コラボレーティブロボティクス等における AI 分野の進歩と公共政策や技術的課題が提示され、これらの課題に取り組むため、農業、通信、エネルギー、環境、保健医療、輸送などさまざまなアプリケーションに影響を与える現行及び新しい基準への取り組みの重要性が認識されました。

戦略課題②セッションでは、スマートシティソリューションが大規模な実装に移行するにつれて、異なる人口密度、地理、文化など条件違いが課題になり、都市/コミュニティのサービス相互運用性に有効な世界標準の構築への取り組みが重要との議論が行なわれました。

WRC-19 AI 1.12 に関するセッション③では NEC の山本氏がモデレータを務め、ITU-R の WRC-19 に向けた活動の説明に続いて TIA、TTA、TSDSI、ARIB(山本氏)が状況や取組 みのプレゼンテーションを行ない、ITS TF (Task Force: 議長は山本氏)からは今後の活動計画の説明がありました。その後のディスカッションでは WRC-19 AI 1.12 や LTE V2X 関連の新しい課題への取り組みの重要性が認識され、ITS TF の継続が承認されました。



GSC-21 会合の様子と ARIB の取組みの説明を行なう西岡理事



WRC-19 AI 1.12 関連セッションの様子とモデレータを務める山本氏

6 oneM2M SC、3GPP PCG/OP 会合同時開催

GSC-21 会合に前後して、同じく IEEE 主催により、oneM2M 第 38 回 SC (Steering Committee) 会合が 9月 25日(月)に、3GPP 第 39回 PCG 会合/第 38回 OP 会合が 9月 28日(木)~29日(金)に開催されました。

7 コミュニケ

会合の成果として、議論内容の概要を盛り込んだコミュニケが作成・公表されました。

8 次回会合

次回、第 22 回会合は、2019 年 3 月上旬に ISO/IEC がホストとなり、スイスで開催される予定です。(2023 年後半~2024 年前半に、第 25 回会合が ARIB・TTC がホストとなって日本で開催される計画です。)

※1:GSC メンバー

ARIB	(一般社団法人電波産業会)	日本
ATIS	(Alliance for Telecommunications Industry Solutions)	米国
CCSA	(China Communication Standards Association)	中国
ETSI	(European Telecommunications Standards Institute)	欧州
IEEE- SA	(IEEE- Standards Association)	_
IEC	(The International Electrotechnical Commission)	_
ISO	(International Organization for Standardization)	_
ITU	(International Telecommunication Union)	_
TIA	(Telecommunications Industry Association)	米国
TSDSI	(Telecom Standards Development Society, India)	インド
TTA	(Telecommunications Technology Association)	韓国
TTC	(一般社団法人情報通信技術委員会)	日本

今週の ARIB 内会合(10月10日~10月13日)

- 10月10日(火) XGPフォーラム 幹事会
- 10月11日(水) ITS 情報通信システム推進会議 ミリ波 WG(第 16 回)、5GHz 帯路車 間通信検討 WG(第 147 回)
- 10月12日(木) ITS 情報通信システム推進会議 企画部会(第37回)
- 10月13日(金) 自営無線通信調査研究会 共同利用 WG(第9回)
- 10月13日(金) 電磁環境委員会 人材育成 WG

今週の国際会合(10月10日~10月13日)

10月3日(火)~11日(水) ITU-R SG5 WP5D(第28回) (ドイツ・ミュンヘン)

総務省からのお知らせ [

電波法施行規則等の一部を改正する省令案等に係る意見募集 -無線局免許申請手続等に係る規制緩和等を図る制度整備-【平成 29 年 9 月 29 日発表】

総務省は、無線局免許申請手続等に係る規制緩和等を図る制度整備として、電波法関係省令等の改正案を作成しました。これらについて、平成29年9月30日(土)から同年10月30日(月)までの間、意見募集を行っています。

[背景]

総務省では、従来より、無線局免許申請等に係る電子申請の普及・促進に取り組んでいます。 この中で、電子申請における入力様式が書面の申請書等の様式と全く異なることから、免許人 等にとって記載方法がわかりづらく、不備訂正等のための処理に時間を要していることが課題 となっています。

今般、電子申請と書面申請の親和性を高めるために書面申請の様式を変更するとともに、様式が定まっていない手続につき様式の明確化を行うことにより、電子申請の更なる普及・促進を図るための制度整備を行うものです。

詳細については【平成29年9月29日の総務省報道資料】をご覧ください。

編集後記〔

今号は会合やイベントが集中して、内容てんこ盛りになってしまいました。AWG-22 と GSC-21・3GPP PCG/OP の日程の衝突には、他の SDO (Standards Developing Organization) でも対応に苦慮したところがあったのではないかと思います。

CEATEC 2017 では、ARIB ブースをお訪ねくださったいろいろな方とお話をする機会がありました。アンケートの集計をしてからでないと確かなことは言えませんが、昨年と比べて"無線・電波関連の情報収集"を目的に来られた方が昨年と比べて多い印象を受け、一方で質問票にご記入いただいてARIB内の専門の部署に送らないとご回答できないお問合せが半分以下に減りました。個人的には無線の裾野の広がりを感じましたが、皆様はどのように捉えられますでしょうか。

(編集子: Y.K)



Association of Radio Industries and Businesses